

平成 30 年度 スケルトン競技国際競技会派遣選手選考コンバインテスト要項

1. 期日：第 1 回・平成 30 年 8 月 5 日（日）
第 2 回・平成 30 年 9 月 8 日（土）
2. 場所：長野県障がい者福祉センター「サンアップル」陸上競技場
〒381-0008 長野市下駒沢 586 TEL026-295-3111 <http://www.avis.ne.jp/~sunapple/>
3. 主催：公益社団法人日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟（以下「日本連盟」という。）
4. 実施要項：
 - (1) 種目
 - ・ 30m 加速走タイム計測
 - ・ 立ち幅跳び記録計測
 - (2) 試技順
 - ・ 受付時にドロー（抽選）を行い決定する。
 - ・ 各種目での試技順の変更は行わない。
 - (3) 出場選手義務
 - ・ 日本連盟への参加申し込み。
 - ・ 平成 30 年度日本連盟スケルトン競技選手登録。
 - ・ 傷害保険へ加入（記録会当日が保険対象日であるか確認のこと）。
 - ・ ドーピング規則厳守。
 - ・ 未成年者の場合は、保護者の承諾書提出。
 - (4) 出場資格
14 歳以上の日本連盟スケルトン競技選手登録者
 - (5) 申込方法
日本連盟ホームページにある参加申込書に必要事項を記入の上、メール（info@jblsf.or.jp）にてお申込み下さい。
 - (6) 申込締切
第 1 回・平成 30 年 8 月 2 日（木）12：00 迄
第 2 回・平成 30 年 9 月 6 日（木）12：00 迄
 - (7) 日程（第 1 回・第 2 回ともに同スケジュール）

13：00	受付開始・試技順ドロー（抽選）
13：10	開会式・競技説明
14：30～14：50	30m 加速走測定 1 回目
14：50～15：10	30m 加速走測定 2 回目
15：30～15：50	立幅跳び測定 1 回目
15：50～16：10	立幅跳び測定 2 回目
16：20	閉会式

* 競技の進行状況、その他により、日程を変更することがある。その場合には、すみやかに選手に通達する。
 - (8) 測定種目説明
【測定 1：30m 加速走】
 - ・ 全天候型陸上競技トラック直線レーンを使用し実施する。
 - ・ 0m（スタート）、30m（フィニッシュ）のそれぞれの地点にタイム計測用光電管を設置

し、30mのタイム計測を行う。

- ・計測は1/100"まで測定する。
- ・各選手の試技可能回数は、2回とする。試技の1回目は必須とし、2回目は任意とする。2回目をキャンセルする場合は、1回目終了後2回目開始前までに速やかに通告係に知らせること。
- ・使用するシューズについては、陸上競技用スパイクシューズ、もしくはランニングシューズとする。
- ・陸上競技用スパイクシューズは、ピンの長さ9mm以下とし、ピンの本数は片足11本以内とする。
- ・ランニングシューズは、グリップを有利にするための突起や装置が付いてはならない。
- ・スタート形式は、スタンディングスタートとする。スターティングブロックやその他足置きは使用できない。
- ・選手は、スタートの光電管から後方1m以内に前足をセットしなくてはならない。後ろ足は1mを超えてセットしても良い。試技を開始する際には、1m以内にセットした前足を宙に浮かしてはならない。
- ・選手は、通告係のコール（試技開始の合図）があつてから30秒以内に試技を開始（スタートの光電管を切る）しなければならない。
- ・試技は、女子1回目、男子1回目、女子2回目、男子2回目の順に行う。
- ・1回目と2回目間のインターバルは設けない。
- ・試技中なんらかの理由により光電管が作動しなかった場合は、その試技回の全選手の測定が終了した後に再度試技を行う。
- ・タイム計測レーンでの練習時のタイム計測は実施しない。
- ・通告係のコール（試技開始の合図）があるまで各自ウォームアップを実施出来る。

【測定2：立ち幅跳び】

- ・陸上競技場走り幅跳びピット（砂場）を使用し実施する。
- ・両足を軽く開いて、ピット（砂場）の端が使用出来る場合にはそこに、端が使用できない場合には足置き用の板を設置しその上に、両足の拇子球付近が掛かるように立つ。助走を付けずに腕や身体で十分反動をつけてから、両足で同時に前方へ踏み切り、出来るだけ遠くに跳躍する。身体の一部が砂場に触れた最も踏み切り位置に近い地点と、両足を掛けた踏み切り位置の両足の midpoint とを結ぶ直線の距離を計測する。
- ・使用するシューズは陸上競技用スパイクシューズ、もしくはランニングシューズとする。
- ・陸上競技用スパイクシューズは、ピンの長さ9mm以下とし、ピンの本数は片足11本以内とする。
- ・ランニングシューズは、グリップを有利にするための突起や装置が付いてはならない。
- ・選手は、通告係からコール（試技開始の合図）があつてから30秒以内に試技を開始しなければならない。
- ・各選手の試技可能回数は、2回とする。試技の1回目は必須とし、2回目は任意とする。2回目をキャンセルする場合は、1回目終了後2回目開始前までにすみやかに通告係に知らせること。
- ・選手試技順は、測定1（30m走）と同じ順に行う。

- ・1回目と2回目の間のインターバルは、設けない。
- ・測定は1cm単位で行い、以下切捨てとする。
- ・練習時間内の試技用ピットでのウォーミングアップは可能である。

【補足】

- ・測定は、30m走1回目（女子、男子）→30m走2回目（女子、男子）→立ち幅跳び1回目（女子、男子）→立ち幅跳び2回目（女子、男子）の順に行う。
- ・測定種目間のインターバルは、基本、最終競技者の試技終了後から20分間とする。但し、状況によって時間を変更のする場合がある。その場合には、すみやかに選手に到達する。
- ・記録会の全ての判断はスケルトン強化部長が行う。

(9) その他

- ・本記録会で生じた事故、怪我、その他について、主催者は一切責任を負わない。
- ・本記録会結果は、2018-2019 スケルトン競技国際競技会派遣選手選考に反映される。
- ・第1回・第2回どちらも参加した場合は優位な記録が優先され反映される。

5. 問い合わせ

(公社)日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟 事務局

TEL03 - 6804 - 9437 Email:info@jblsf.or.jp